

株式会社ピーシー・ブレイン 047-311-6677

☆今月のメニュー

■トピックス

切替の進むヤフー検索の Google 化

□特集

2010年のキーワード
年間検索ワードランキング
モバイル検索ランキング
キーワードの傾向
検索・キーワードの注意点

■ソーシャルメディア

アクセスランキングの上位にも登場している mixi のようサービスは SNS と呼ばれますが、これは Social Networking Service の頭文字です。

Twitter や Facebook のようなサービスはソーシャルメディアと呼ばれます。

この「ソーシャルメディア」とは、Wikipedia によれば、「インターネットやウェブに基づく技術を用いて、ブログや twitter のつぶやきのような一方方向の独り言を多くの人々に伝えることによって、多数の人々が参加する双方向的な会話へと作り替える。」と説明されています。

もうちょっと分かりやすい表現だと「ユーザーが情報を発信して形成してゆくメディア」となります。

一方通行ではない情報発信ではない点が従来とは異なり、ブログでもコメント機能を利用したものはソーシャルメディアとして捉えることもできます。

掲示板とは異なり特定の個人(企業)を中心としたコミュニケーションが発生する点が掲示板とは異なり、機能的には動画や周辺のサービスと連携することで非常に多くの情報を交換することができます。

信頼関係の構築をサポートするツールとしてとても有用です



最近ではテレビ番組、特にニュースをほとんど見なくなりましたが、情報に困るということはありません。インターネットや携帯・モバイル端末を通して思っている以上に情報に接する機会が多いのです。今の時代は情報を遮断することの方が難しいようです。

こんにちは、ピーシー・ブレインの高山です。

さて、ホームページの活用方法を中心とした「WEB マーケティングのヒント」というタイトルで、今月もお役に立つ情報をお届けいたします。

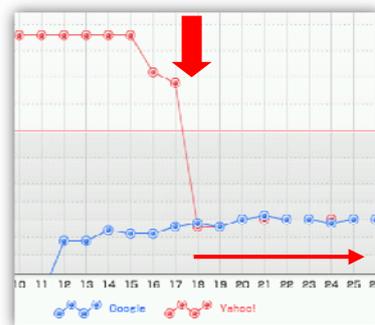
切替の進むヤフー検索の Google 化

今年中に切替すると発表されたヤフー検索エンジン(YST)の Google エンジンへの切り替えですが、ここに来て検索結果にも多くの環境で反映されるようになってきました。

右のグラフは、あるホームページの検索結果の順位を記録したのですが、11/18 に境にしてヤフーと Google の検索結果がほぼ同じ順位になっています。ヤフーの順位が Google に一方的に近づくという変化の仕方です。

このホームページの場合は、検索結果がヤフーの方が Google よりも有利だったため、検索ロジックの変更によって結果が下落する状態になってしまっています。(※この逆のケースも当然あります)

ここから分かるように検索エンジンの切り替えは、前触れなく突如として行われ、ある日を境にして検索結果へすぐに影響を与えてしまうのです。



【図】検索エンジン別検索順位遷移

ヤフーの検索エンジンの切替は年内での完了を目指して急ピッチで進んでいます。SEO 対策として、Google 検索エンジンへの対応は、できるだけ早めに進めることをオススメします。

2010年のキーワード

2010 年もあと1ヶ月ほどになりました。この季節になると、メディアではいろいろな年間ランキングが発表されますが、ここでは、毎年恒例のヤフーによる年間検索ワードランキングを紹介しましょう。



今年のは1位は、3年連続で動画配信サービスの「YouTube」です。動画コンテンツを探している人が増えているのはもちろんですが、テレビなどのメディアでも情報ソースとして紹介される機会も増えていますので、認知度はすでにかかなり高くなっていますので、ブックマークがわりとして Youtube にアクセスするために使っているケースが多いと考えられます。

以降の10位までの順位では、mixi, Amazon, 楽天や Google といったおなじみのキーワードが並びますが、今年の注目はなんといっても「Twitter」です。前年のランキングの圏外からの一気に8位にランクインしています。

Twitter の場合、検索回数だけでなく、実際に利用者もこの1年で急増しています。メディアで取り上げられる機会が増えただけでなく、実際にメディア運動や企業活動の一環として利用されるケースが多いため、利用者が一気に増えたという背景もあります。

ほかには、ブログ関連のサービスで、「アメブロ」が昨年からはさらに順位を上げて、周辺サービスの「アメーバピグ」なども30位に入ってきています。

また、日本ではまだ本格的には浸透していませんが海外で爆発的に普及したソーシャルネットワークサービスの「Facebook」も検索数を伸ばしてきています。

ネット関連以外の一般のキーワードとしては、「AKB48」が圏外から検索数を伸ばしています。

図 2010 検索ワードランキング(Yahoo!)
<http://searchranking.yahoo.co.jp/ranking2010/>

株式会社ピーシー・ブレイン

〒270-2253
千葉県松戸市日暮 1-2-6
勝どきビル3F

電話番号
047-311-6677

Fax
047-311-6678

E-mail
info@pcbrain.co.jp

営業時間:
9:00～17:30

地域で一番ネットを使った商売に
詳しいコンサルティング企業

- Web マーケティングコンサル
- ネット集客支援
- ホームページ制作
- SEO リニューアル
- WEB システム開発



当社 Web サイト
URL:
<http://www.pcbrain.co.jp>
<http://www.webquick.jp>



モバイル検索ランキング

先に紹介したキーワードのランキングは、PC からの検索によるランキングです。これがモバイルのランキングになると少し様子が変わってきます。

最近のモバイル端末では動画を閲覧できるものも多くなっていますが、やはり多いのはゲーム関係です。モバイル向けのゲームサービスを提供している「モバゲー」「GREE」が上位に位置しているのが PC との大きな違いです。
このモバイルでも「Twitter」は注目キーワードでモバイルとの相性の良さが分かります。

【モバイル総合ランキング】

1	mixi	11	M コミュ
2	モバゲー	12	じゃらん
3	YouTube	13	前田敦子
4	GREE	14	マクドナルド
5	2ちゃんねる	15	前略プロフィール
6	Google	16	宝くじ
7	楽天	17	ぐるなび
8	Twitter	18	タウンワーク
9	アメブロ	19	辻希美
10	Amazon	20	大島優子

キーワードの傾向を調べる

ランキングからは総検索回数ですが、これは年間を通じて一定の検索数があることを意味している訳ではありません。
季節変動のあるキーワードは、検索数が大きく変動しますし、イベント・ニュース性のキーワードはピークが突出したような形になります。キーワードの検索数を時系列で捉えればそのキーワード需要の伸びも分かります。
次のグラフは、「Twitter」というキーワードの検索数の推移です。

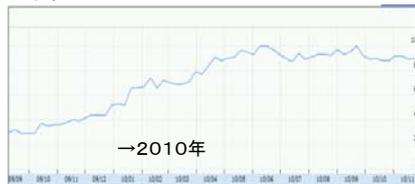


図 「Twitter」検索回数の推移

Twitter の場合は、昨年の後半から今年の前半にかけて急速に検索回数が増えている様子がこのグラフからもよく分かります。

次のグラフは「エコポイント」の検索回数です。制度が変更になる3、4月の時期と、この12月にかけて検索回数が増えている様子が分かります。



図 「エコポイント」の検索回数の推移

このグラフは、Google が提供している Insights というサービスで出力することができます。キーワードの変動傾向を把握すれば、より効果的に広告や SEO 対策などに投資することができます。なお、この Insights の利用にあたって料金はかかりません。無料で提供されています。活用しない手はありません。

Google Insights for Search
<http://www.google.com/insights/search>

「検索」「キーワード」の注意点

ランキングやキーワードツールや Insights のようなツールを利用することで、検索エンジンの利用状況やキーワードの検索数をもとにしてニーズを推測することができます。これはインターネット利用者の多くが検索エンジンを入り口にしてホームページやネットのサービスを利用するケースが圧倒的に多かったという行動様式が前提になっています。
ところが、最近のインターネットにはちょっとした変化が起きてきています。
最近では、ソーシャルメディアとよばれる双方向性を持ったネット上の Twitter や Facebook のようなネットワークサービスが台頭してきています。米国ではこの3月に Facebook が Google のアクセス数を超えたというような調査レポートもありました。
このことが意味しているのは、検索エンジンではない場

所からホームページに到達する可能性が今後は非常に多くなっていくということです。
例えばリアルタイム性という点で、Twitter は検索エンジンを凌駕します。Twitter で伝搬している情報を機転にしてホームページなどへ到達する訳です。従来のキーワード情報に依らないアクセスの流れが発生するのです。しかも、ソーシャルメディア上では「人」の存在を感じやすいので検索エンジンの結果よりも反応しやすいという特徴があり、このことはコンバージョンなどを考えた場合には極めて重要です。
Facebook の利用者が増えてくればこの傾向はさらに顕著になると予想されます。
こうなると、これまでの SEO だけに頼った対策では十分なアクセス・反応が得られなくなる可能性がでてきます。これからのインターネットでは、入り口は検索エンジンだけではないことを頭にいれておきましょう。

ニュースレターを読んだ感想、取り上げて欲しいテーマ、相談など、ぜひご意見をお聞かせ下さい！
→ FAX:047-311-6678 / 電子メール:info@pcbrain.co.jp

株式会社ピーシー・ブレイン

発行責任者: 高山卓巳
〒270-2253 千葉県松戸市日暮1-2-6 勝どきビル3F



TEL: 047-311-6677 FAX: 047-311-6678 Email: info@pcbrain.co.jp